

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90223	民族音楽学研究	4単位 通年	1・2	講義	小西 潤子

■テーマ グローバル社会における音楽芸能について理解する

■授業の概要

応用音楽学の考え方について学んだうえで、「グローバル化社会における音楽芸能」を大テーマ、「社会」「環境」「学校教育」「地域社会」「文化行政」「国際社会」をトピックスとし、沖縄を含めたアジア太平洋地域の音楽芸能パフォーマンスに関する文献講読および事例研究を行う。これにより、民族音楽学研究の動向を知り、自らが課題を見出して取り組む力を身につける。

■到達目標

- ・民族音楽学研究の動向を知り、自らの研究課題と関連づけて理解する。
- ・民族音楽学に関する英語文献を読む力を向上する。
- ・民族音楽学の課題について、論理的に記述し口頭で的確に説明することができる。

■授業計画・方法

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 民族音楽学の研究動向① | 16. 音楽芸能と地域社会① |
| 2. 民族音楽学の研究動向② | 17. 音楽芸能と地域社会② |
| 3. 民族音楽学の研究動向③ | 18. 音楽芸能と地域社会③ |
| 4. 民族音楽学の研究動向④ | 19. 音楽芸能と地域社会④ |
| 5. 音楽芸能と社会① | 20. 音楽芸能と地域社会⑤ |
| 6. 音楽芸能と社会② | 21. 音楽芸能と文化行政① |
| 7. 音楽芸能と社会③ | 22. 音楽芸能と文化行政② |
| 8. 音楽芸能と社会④ | 23. 音楽芸能と文化行政③ |
| 9. 音楽芸能と社会⑤ | 24. 国際社会における音楽芸能公演① |
| 10. 音楽芸能と環境① | 25. 国際社会における音楽芸能公演② |
| 11. 音楽芸能と環境② | 26. 国際社会における音楽芸能公演③ |
| 12. 音楽芸能と環境③ | 27. 国際社会における音楽芸能公演④ |
| 13. 学校教育と音楽① | 28. 国際社会における音楽芸能公演⑤ |
| 14. 学校教育と音楽② | 29. 国際社会における音楽芸能公演⑥ |
| 15. 前期総括 | 30. 総括 定期試験は実施しない。 |

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・図書館や音楽資料室所蔵の関連文献、音源・映像資料を利用して、各自授業の予習・復習をすること。
- ・英語文献の講読に際しては、内容理解に必要な予習・復習を徹底すること。
- ・積極的な発言や質問をすること。

■成績評価の方法・基準

□方法 ・授業への取り組み（60%）、期末レポート（40%）

- ・学習意欲や主体的な取り組みが見られるか。
- ・理解が深まるとともに、自らの課題を見だし解決する力がついたか。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 教員の指示による。
- テキスト 教員の指示による。
- 参考文献 教員の指示による。